
Pioneering New Breakthroughs in Electronics



2020年3月期第2四半期

決算説明会



株式会社 大真空

トピックス

KDS おかげさまで

60th
Anniversary

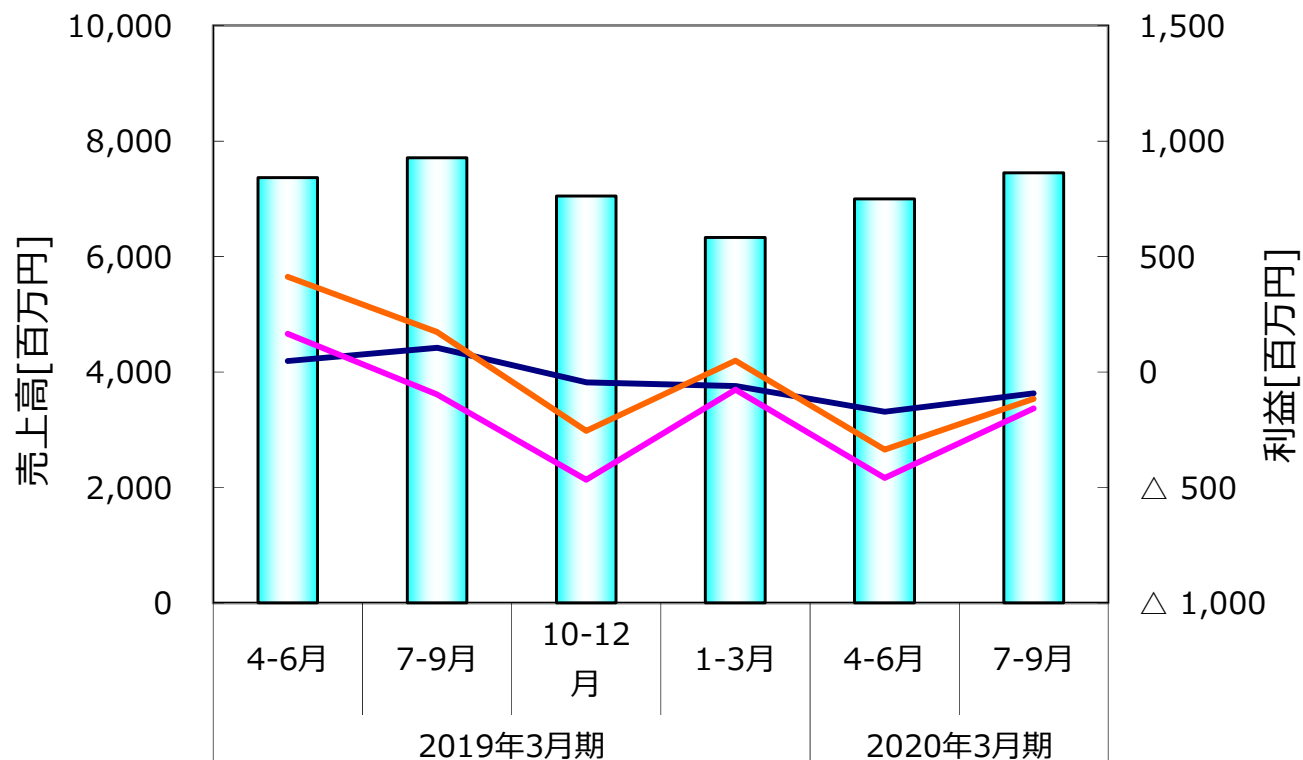
- ☆ 創業60周年
- ☆ 第2四半期末配当：5円
- ☆ 通信向けが前年同期比で2桁増加
- ☆ 長期計画「OCEAN+2戦略」を策定
- ☆ Arkh.3Gシリーズが
2019年度グッドデザイン賞を受賞





業績 <連結>

単位：百万円

	2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	前年同期比	
			増減	増減率
売上高	15,077	14,449	△ 628 ↓	△ 4.2%
営業利益	153	△ 264	△ 417 ↓	-
経常利益	585	△ 452	△ 1,037 ↓	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	69	△ 615	△ 684 ↓	-
1株当たり 四半期純利益（円）	8.55	△ 76.20	△ 84.75 ↓	-
総資産	61,013	58,801	△ 2,212 ↓	△ 3.6%
純資産	31,395	29,373	△ 2,022 ↓	△ 6.4%
株主資本比率（%）	43.2	41.5	△ 1.7ポイント ↓	-
USD期末レート（円）	113.57	107.92	△ 5.65 ↓	-
USD平均レート（円）	110.26	108.60	△ 1.66 ↓	-

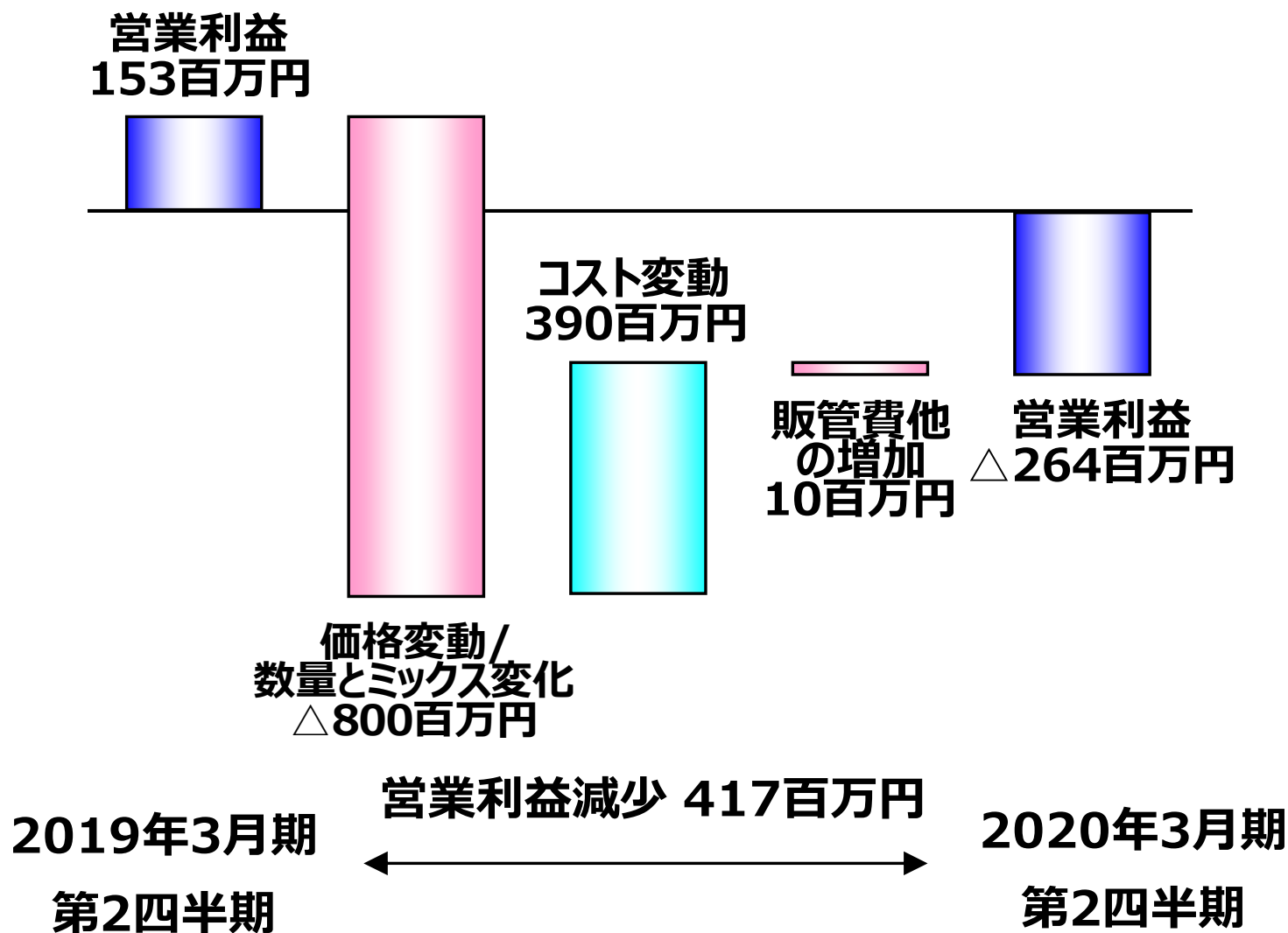
四半期業績 <連結>



 売上高	7,367	7,710	7,051	6,329	7,000	7,449
 営業利益	48	105	△ 45	△ 61	△ 172	△ 92
 経常利益	412	173	△ 254	50	△ 336	△ 116
 当期純利益※	166	△ 97	△ 467	△ 77	△ 458	△ 157

※親会社株主に帰属する四半期純利益

損益分析<連結>



機種別販売実績 <連結>

単位：百万円

	2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	前年同期比
一般水晶振動子	7,202	6,979	△ 3% ↓
音叉型水晶振動子	1,535	1,336	△ 13% ↓
水晶応用製品	5,660	5,464	△ 3% ↓
その他	679	668	△ 2% ↓

◆ 価格変動の影響などにより、すべての機種でマイナス

用途別販売実績 <連結>

用途別（構成比）	2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	前年同期比
通信	35%	40%	10% ↑
カーエレ	30%	28%	△ 11% ↓
民生	19%	19%	△ 5% ↓
産業	13%	10%	△ 23% ↓
その他	3%	2%	△ 19% ↓

※前年同期比は絶対額の増減率

◆中国スマホが堅調に推移し、通信分野では2桁のプラス

地域別販売実績 <連結>

地域別（構成比）	2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	前年同期比
日本	16%	13%	△ 20% ↓
アジア	69%	72%	1% ↑
北米	6%	6%	△ 14% ↓
欧州	9%	9%	△ 7% ↓

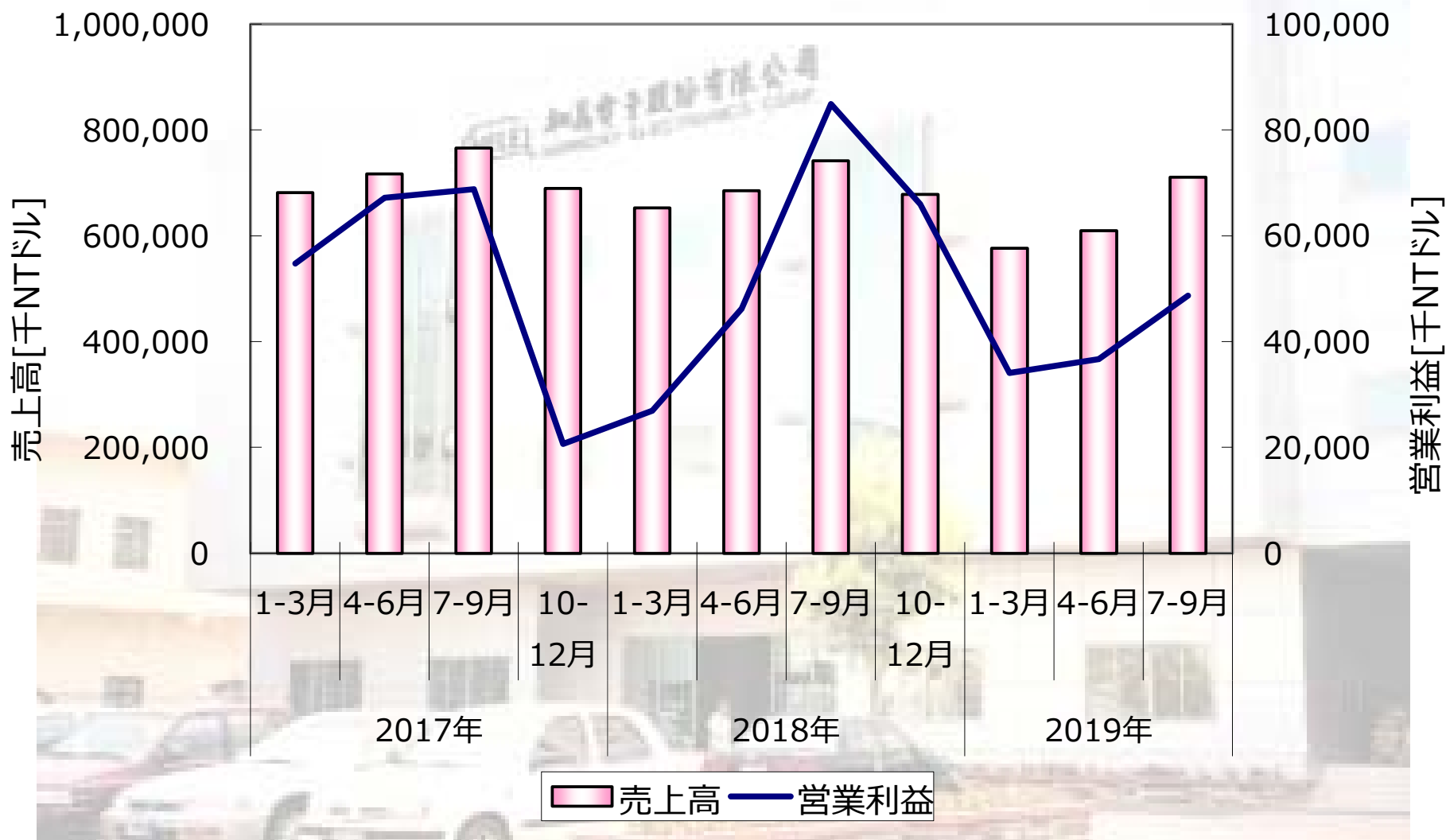
※前年同期比は絶対額の増減率

※2019年3月期第2四半期に遡って集計方法を変更

海外売上比率	84%	87%	3ポイント ↑
海外生産比率	56%	57%	1ポイント ↑

◆通信関連が増加し、アジアでの販売が前年同期比プラス

加高電子

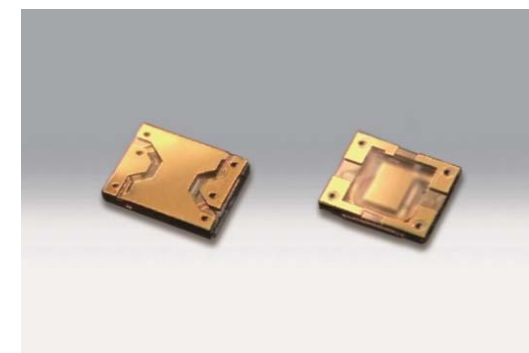


設備投資・減価償却費 研究開発費<連結>

単位：百万円

	2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	増減
設備投資	1,258	1,953	695 ↑
減価償却費	1,392	1,238	△ 154 ↓
研究開発費	836	933	97 ↑

- ◆ Arkh.3Gを中心に小型水晶振動子や水晶発振器などの能力増強



業績予想 <連結>

単位：百万円

	2020年3月期 第2四半期 実績	2020年3月期 通期計画
売上高	14,449	32,000
営業利益	△ 264	1,000
経常利益	△ 452	930
親会社株主に 帰属する当期純利益	△ 615	440
1株当たり配当金	5円	-
設備投資	1,953	4,000
減価償却費	1,238	2,700
研究開発費	933	2,000
USD 実績レートの(円)	108.60	

下半期の取り組み【通信市場】



第1四半期～第2四半期の 主な動き

- ◆金額、数量ともに2桁増加
- ◆地域別では中国、台湾向けが増加



下半期の取り組み【カーエレ市場】

第1四半期～第2四半期の
主な動き

- ◆金額ベースでは減少したものの、
ADAS向けを中心に数量ベースでは増加



<上期>

売上減少

数量は増加傾向

<市場動向>

早期回復は期待薄

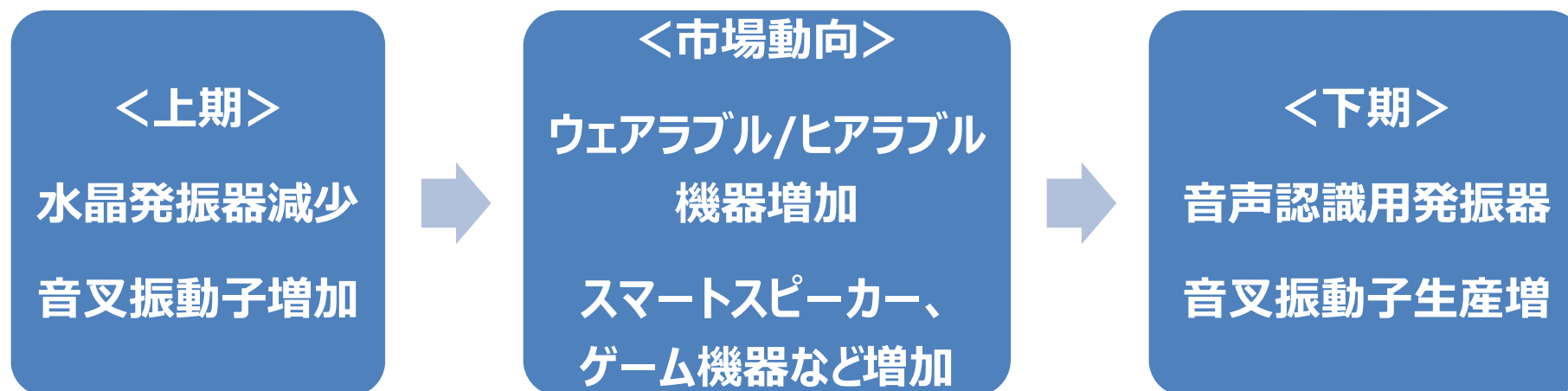
ADAS、V2X、
eCallなど機能増加

<下期>

ドライブレコーダー注力

売価維持

下半期の取り組み【民生市場】



第1四半期～第2四半期の
主な動き

- ◆金額、数量ともに増加
- ◆アミューズメント、映像関連分野が
堅調に推移



下半期の取り組み【産業市場】

第1四半期～第2四半期の
主な動き

- ◆ 産業機器向けが2桁増加
- ◆ 機種別では水晶発振器や音叉型水晶振動子が増加



<上期>

米中摩擦の影響
日系顧客影響大



<市場動向>

市場に回復の兆し
ドローン、医療機器
など増加



<下期>

価格維持
海外顧客開拓強化

下半期から来期の戦略実行

既存製品群

- 高精度TCXO、ADAS対応発振器、5G向け高周波対応

Arkh.3G

- FinTech対応機器、医療機器市場での拡大、光通信対応

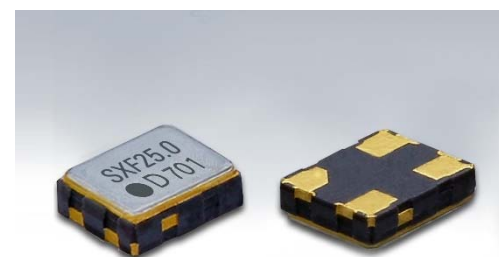
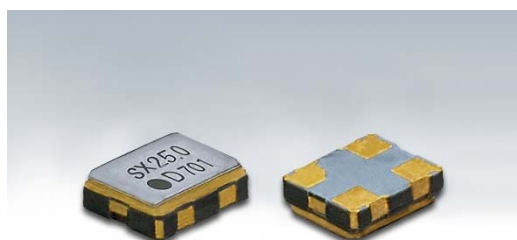
材料・設備

- 大型高純度人工水晶と大型水晶ウェハの開発推進

新製品 I

車載走行安全系用途対応小型水晶発振 「DSO211/221SX」

汎用タイプ^o小型水晶発振器 「DSO211/221SXF」



「DSO211/221SX」

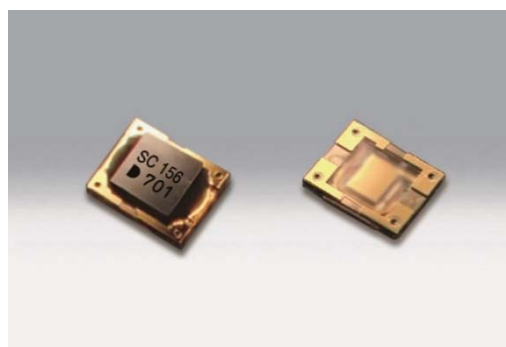
車載市場向け用途に対応し、「自動運転レベルⅡ」や車載部品の信頼性規格「AEC-Q100/AEC-Q200」に適応

「DSO211/221SXF」

主に民生市場、通信市場、産業市場向用途に拡販

新製品Ⅱ

Arkh.3Gシリーズ差動出力水晶発振器 「DS1008JC/JD/JJ/JK」



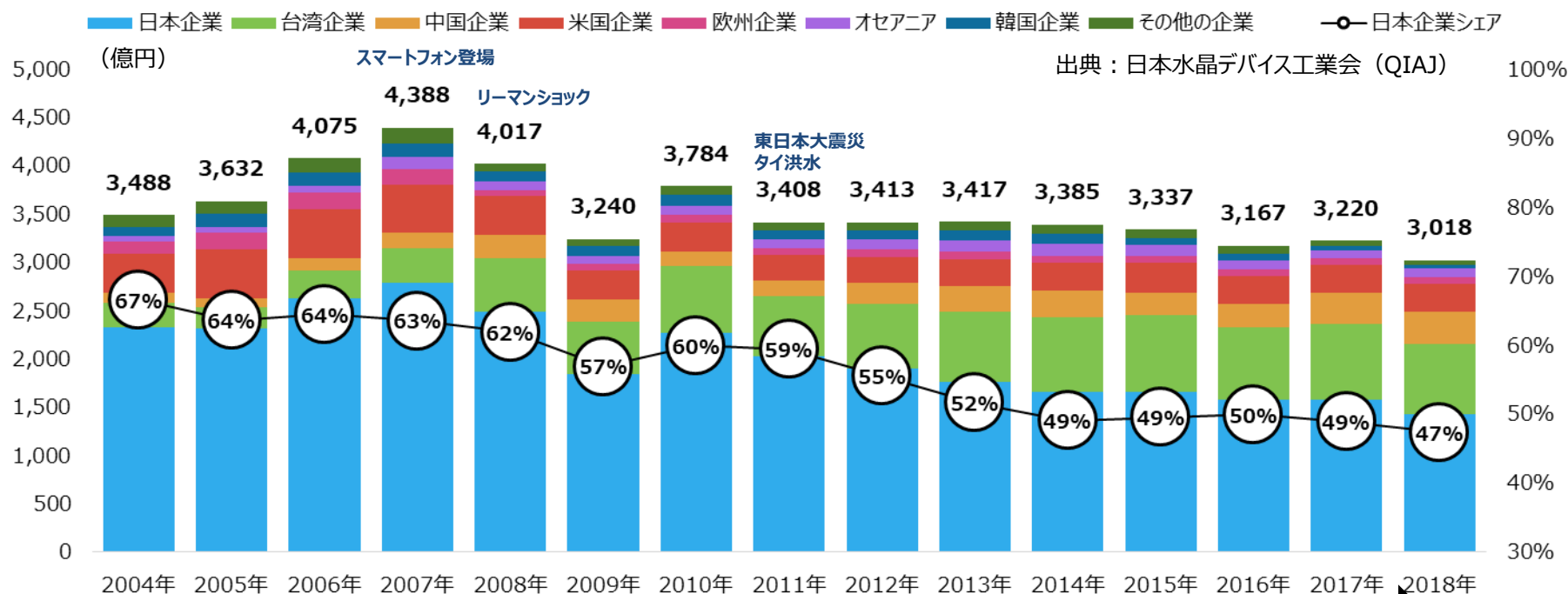
差動出力水晶発振器は7050サイズや5032サイズが主流



世界最小・最薄の1008サイズ差動出力水晶発振器
用途：次世代光ネットワーク機器

水晶デバイス業界の変遷

ワールドワイド金額推定



中国・台湾企業の台頭、日本企業のシェア低下

水晶デバイス業界の状況

2000年代前半 日本メーカー世界シェア約70%

各社適正利益確保

約10年前より台湾・中国メーカー台頭

材料（水晶片、パッケージ）、製造設備 購入による参入

日本メーカーは最先端分野（通信、車載）へシフト

大手チップセットメーカー主導により水晶デバイスの標準化が進む

通信分野へも台湾・中国メーカーの参入が始まり

日本メーカー各社は投資回収が難しくなり、利益創出に苦戦

水晶デバイス業界の課題

水晶デバイスの汎用品化

低価格市場拡大

新規参入メーカー乱立

業界リーダーの不在

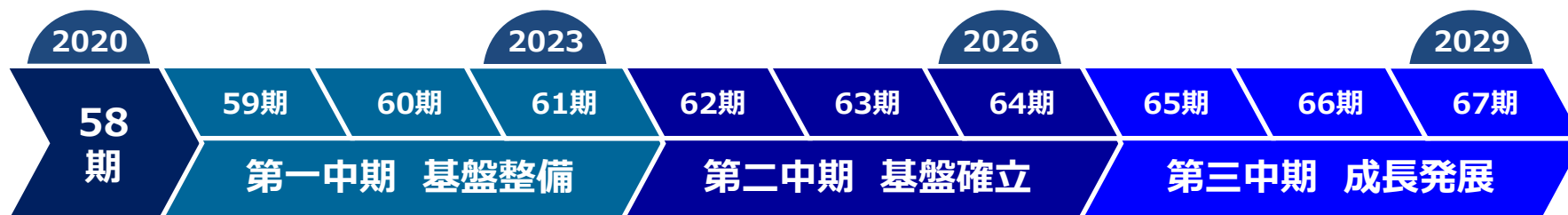
課題に対する当社の取り組み

課題	戦略
水晶デバイスの汎用品化	新たな市場を創り出す…IC内蔵、超薄型市場創造、新デバイス 特定市場に特化…GPS精度向上、ADAS対応、5G高周波対応、 業務用無線
低価格市場の拡大	最先端技術を使った、新たな世界最安直材比製品投入
新規参入メーカー乱立	<ul style="list-style-type: none"> ・フトリソグラフィ加工に必須の大型水晶ウェハの外部販売 人工水晶、大型水晶ウェハを押さえ参入障壁を高める ・加高電子との設備共同開発によるノウハウのブラックボックス化
業界リーダーの不在	オープンイノベーション、コラボレーション推進により水晶業界の リーダーを目指す

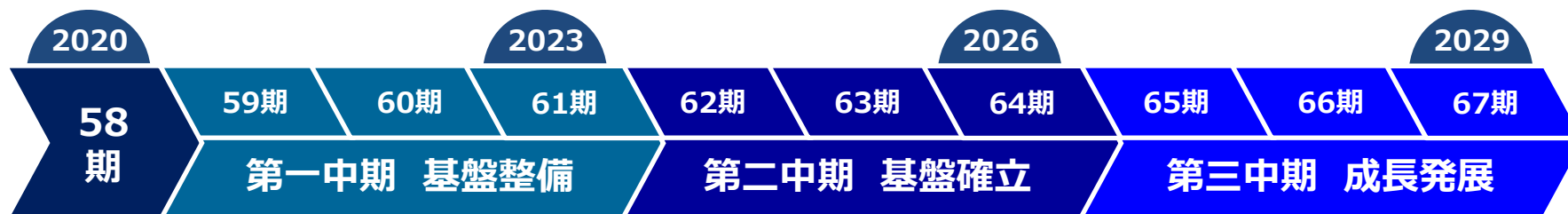
基本戦略

- 一社供給 → Arkh.3G、IC内蔵、薄型を武器に
- 低コスト域への挑戦 → Arkh新シリーズの世界最安直材比で
- 材料ビジネス → 自社技術力を活かしたウェハ販売
- 共創 → オープンイノベーション、コラボレーション
- 残存者利益 → ニッチ市場での安定的利益確保
- 新たな結晶 → 新たな結晶育成に挑戦
- 新たなデバイス → 新たな要素技術の確立による創造

マイルストーン

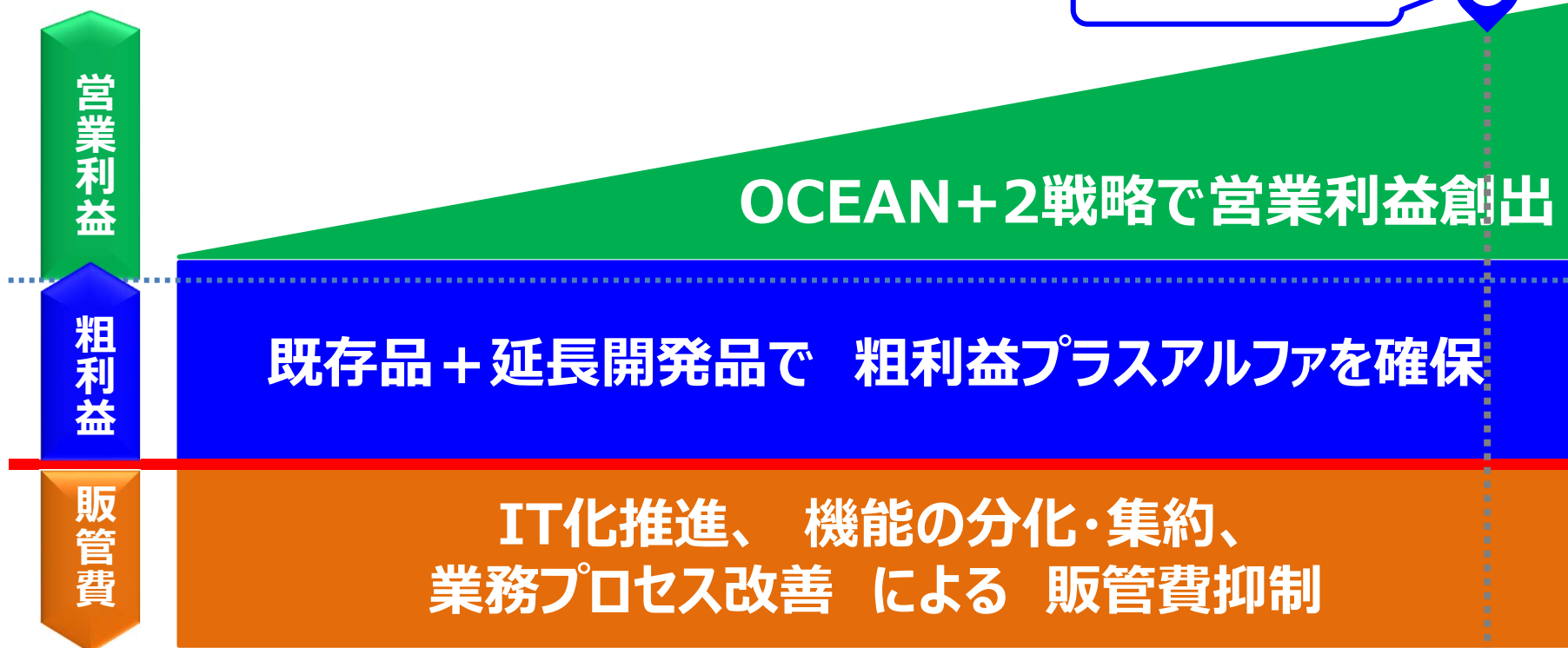


利益創出イメージ



※イメージ図

長期ビジョンの実現



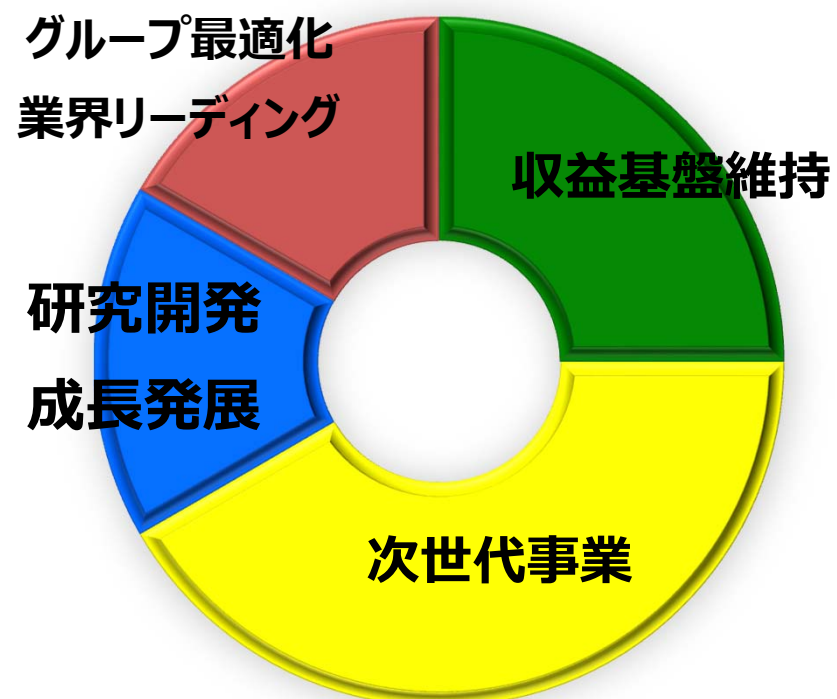
投資計画

成長投資ポリシー

**長期10年
投資総額** **600**
億円

準備期、安定期、拡大成長期
それぞれに見合った
メリハリある投資を実行

リソース配分イメージ



今期の業績などの予想につきましては、現時点で得られた情報に基づき算出していますが、不確定な要素を含んでおります。業況の変化などにより、業績予想とは違った結果になりうることをご承知おきください。